



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am（「朝の祈り」に続いて）
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



信仰の共同体を一緒につくりあげていきましょう

主任司祭 小西 広志 神父

都内に発令された三回目の緊急事態宣言が解除されました。しかし、しばらくの間は教会での典礼などはいくつかの制限が伴います。少しネガティブな言い方かもしれませんが、もはやコロナが来る前のような社会には戻れないと思います。コロナの前のような教会には戻れないと思った方がよいでしょう。

昨年の春に一回目の緊急事態宣言が発令されて、教会を閉じました。主日のミサもできませんでした。その時に痛感したのは教会とは「集う」場所なのだという事実です。人が「集う」ことで教会、典礼は成り立っていきます。しかし、「集う」のが難しくなると、教会の存在の意味と果たす役割は薄らいでいきます。

わたしは、司祭として、コロナ禍に見まわれる前から、教会、とりわけ小教区共同体のあり方に少し疑問を抱いていました。その疑問というのは一言でいえば「硬直化した典礼、硬直化した組織」です。典礼に参加する、しかも積極的に参加する、これが、教会が求めてきたものです。確かに、多くの方々の協力の中で典礼は成り立っています。司式者だけでは典礼は成り立ちません。司会者、先唱者、朗読者、奉仕者、オルガンの奏者、聖歌隊、そしてなによりもそこに居合わせる会衆が協力し合って、心を寄せ合ってミサは成り立っていきます。このことはわたしたちの教会に定着しました。ですから、皆でミサをささげているという雰囲気生まれていったと思います。それはよいことでした。しかし、いつの間にか典礼の中で果たす役割が固定化してしまっただけのようにも思います。朗読当番、奉仕者の当番という「お当番制」が当たり前になりました。また、きれいな典礼、スムーズにつがなくなると行われる典礼を目指すばかりに、何か大切なものを置き去りにしていったようにも思います。教会の公の礼拝行為が典礼ですが、実際には信徒の皆さんにとって典礼と言えばミサです。ミサをしっかりとささげましょう。ミサにしっかりと参加、与りましょうという思いが先行してしまい、ミサとはいったい何か、ミサは自分の人生の中でどんな意味を持つのかという根本的なものが深められないままにきたように思います。ただ形だけと言えば、反論はあるでしょうが、目に見えるところだけを取りつくるってミサに参加していたというのが実状のような気がしてなりません。そして、典礼は毎年同じことを繰り返しますので、いわばミサが年中行事のような体を帯びていったように思えます。

信仰共同体の組織も同様です。毎年同じことを繰り返す。それでよしとしている。わたしは「日本の教会はバザーとパーティだけの教会だな」と心の中で思っていました。バザーが本当に必要なのでしょうか。メンバーが高齢化する信仰共同体の中で同じことを繰り返してよいのでしょうか。初聖体や大きなお祝い日のパーティは必要なのでしょうか。家庭の様々な事情で日曜日ですら働かなければならないような信徒が多くいる信仰共同体のなかであって。三十年前、二十年前に行っていた行事を無批判に行っていてよいはずはない。信仰共同体の見直しが必要なのですが、それすらできない状態でした。

二〇一九年に教皇フランシスコが来日しました。日本の社会にとってすばらしい出来事だったと思います。しかし、わたしはひねくれ者ですから、疑問を感じていました。それは、東京ドームでの教皇さまのミサをめぐってのことです。抽選という形式が取られましたので、小教区から皆でそろって教皇ミサに参加するのが難しくなったのです。それで、あわてて三軒茶屋教会と瀬田教会で合わせて八〇名分の席を確保するためにバスを仕立てました。おかげさまで多くの方々が参加できましたが、しかし、やはり抽選に外れる方も生まれました。これは仕方がないことですが、「[抽選に]当たった」、「外れた」という声を聞くたびに、信仰共同体から送られて、信仰共同体のメンバーとしてミサに参加させてもらうという雰囲気薄らいだように思います。些細なことなのかもしれませんが、この出来事の後で、どの小教区共同体の中にも、どの信仰共同体の中にも、人と人の裂け目が生まれていったように思えてなりません。あの頃、友人が「もともと、教会の中にあつた分裂とか格差とかいうものが、教皇来日であからさまになった」と独りごちたのを印象深く覚えています。

教会は神さまの家です。教会には聖霊が満ちています。ですから、教会は愛の家です。父である神さまと出会いたければ教会に赴けばよいのです。しかし、この世の波にもまれる小さな舟である教会は、社会の現実を映し出す鏡ともなり得ます。硬直化した社会、分裂と格差に悩む社会の姿は教会の中にも散見されます。

そんな中で信仰共同体はいつも新たに刷新されなければならないでしょう。信仰の共同体を構成するメンバーの一人ひとりが自分たちの在り方をいつも見直していく必要があるでしょう。しかし、それはとても難しいです。今回の新型コロナウイルス感染症の蔓延とそれに伴う緊急事態宣言の発令、そしてその結果生じた「新しい生活様式」は、信仰共同体の在り方と、司祭も含めてすべてのキリスト者の信仰の在り方を見直すためのよいチャンスとなると考えます。

「集う」ことができないのはとても痛いことです。最初に申し上げましたように「集う」ことが信仰共同体の前提です。一回目の緊急事態宣言が発令されて、主日と週日の公開ミサが中止となった時、瀬田修道院のメンバーは貴重な体験をしました。それは、皆でそろって毎日ミサをささげようようになったことです。それまでは「当番制」で近隣のシスターの方のところでミサをしていたのが、一緒に主の祭壇を囲んで、祈りをささげることができるようになり、共同司式もよいものだと感じるようになりました。そして、宣言が解除されても、その、共に祈る、共にささげることが続けました。わたしは、その時から再び公開ミサが中止されないかぎり、瀬田教会ではミサを続けたいと考えました。そして、そのことに努めています。幸い、主日のミサには多くの方々が参加しているのはありがたいことです。ミサがあり続けるのは、多くの人々にとって貴重なものとなるでしょう。コロナ禍でも、感染の予防をしながら「集う」のを怠らないという教会の姿勢は近隣の方々に勇気を与えるものとなるでしょう。

再開されたミサの中で、甚だ勝手ですが、いくつかの工夫をしました。まず、朗読の係をやめました。どなたでも朗読してもよいことにしました。多くの方々が積極的に朗読にチャレンジして下さいます。これもまたありがたいです。最近、少しマンネリ化したところもありますけど、是非、多くの方々に朗読をしていただきたいと思います。初聖体を終えた子どもたちが朗読するのも可能です。こうやって、「当番制」ではない、皆で力を合わせてのミサを体験していきましょう。

工夫の二番目として共同祈願を皆で祈ることにしました。以前より常々思っていたことですが、信徒の典礼への積極的参加の中で、一番難しく、それでいて一番美のあるのが共同祈願です。できれば、自分たちの言葉で共同祈願をささげて欲しいのですが、一つ飛びにそこまで行き着きません。それで、せめて、居合わせた人が心を合わせて祈るために、皆と一緒に唱えることにしました。心を込めて、言葉をかみしめて祈っていただきたいです。

工夫の三番目にミサの中で献金の奉納ができませんので、ミサ後にジュースなどの飲み物の販売をしました。売上はすべて教会の会計に入ります。仕入れは多くの場合は修道院で行います。小教区共同体から修道院に司祭費として月々いただいています。それを還元する意味で、修道院から購入したものを販売します。おかげで教会の収入を確保することができています。どうぞ、教会への献金として飲み物をお求めください。

また、手芸クラブや個人で小さなお店もやっています。これらの売上金も教会への献金となっています。当初、ミサ後に集まっているのが「密」の状態だという批判もいただいたのですが、「集う」ことのできない今、せめてもの関わり合いを工夫して作りあげていくのは価値がある取り組みだとわたしは確信しています。さらに、月一回の福島野菜の販売にもご協力くださることもありがたいです。

以上のような工夫は主任司祭が主導しての取り組みでしたので、信徒の皆さんへの説明が不足していたのは確かだと思います。しかし、「このままではいけない。この時に何かをしなければ」という思いから生まれたものですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「集う」ことのできない痛みを抱えつつ、それでも「集う」ことの素晴らしさを、この困難な時代にあつて社会に示す使命を帯びているわたしたちの教会は、これからも小さな取り組みを積み重ねていくことが大切になるでしょう。最後に、忘れてはならないのは、「沈黙」の参加者たちのことです。この一年、多くの方々がミサに参加したくともできないでいます。家庭の事情、仕事の都合で人混みを避け、感染の危険を回避するためです。また、高齢によってミサまで来るのが難しい方々もいます。こういった方々もわたしたちの信仰共同体の大切なメンバーであるという事実は忘れてはなりません。彼らはいわば「沈黙」による典礼への参加者です。信徒の行動的な典礼への参加で、最も効果的で価値があるのは「沈黙」であると神学校で習いました。「沈黙」には深い意味があるのです。教会に「集う」のが難しい兄弟姉妹と共に、そういった兄弟姉妹のために、わたしたちはミサに与り、主に賛美をささげていくのです。